

NYA 会報

Nagasaki Young Generation Association

スローガン
心意気

2001
9

発行 ▶ NYA (社) 長崎青年協会 / 長崎市五島町2-14 長崎印刷ビル3階
TEL.095-821-1625 FAX.095-823-7375
会長 野島徹也 編集 ▶ 広報委員会 委員長 井手清治

9月号のテーマ「育」 会長挨拶

会長 野島徹也



皆さん、こんにちは。九月に入りめっきり秋の雰囲気となり、過ごしやすい季節になってまいりました。先月8月8日平和の灯事業への参加、また8月9日には長崎原爆犠牲者慰霊平和記念式典での流れ献花のご招待を受けて行って参りました。犠牲者へ哀悼の意を捧げ、被爆地長崎から恒久平和の実現へむけて平和の発信という事で大変貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

また青年協会に置きましては25日～26日に行われました青少年育成事業では、子供達は飛帆でのクルーズや崎野自然公園でのネイチャーゲームを通して環境の大切さ自然の素晴らしさを学び取り、素晴らしい夏休みの思い出が出来た事でしょう。また今月行われます全体研修は“どうなる長崎2005”と題し先月、今月と二ヶ月に渡り行うと言う今までに無い全体研修での試みですので、とても楽しみにしています。

そして来月はいよいよおくんち広場前夜祭、おくんち広場が開催されます。地域の老若男女の皆さんに憩える場を提供することで、おくんちを盛り上げましょう。当日の参加はもちろんの事、準備段階でも会全体で取り組み、協力し合いながら充実した結果を残せるよう心意気を持って取り組みましょう。

からついていけないということはないので、「長崎」という街と、「自分」の生活が5年後に向け良い方向に育んでいけるきっかけになるよう多くの会員に出席していただきたいものだ。

全体研修イベント後は本年度初の「3分間スピーチ」が行なわれ、「どうなってるの？観光長崎!？」(5月例会テーマ)で池田(佳)君(コーディネーター三瀬君)、「大規模店舗進出に伴う共存は可能か？」(6月例会テーマ)で井手君(コーディネーター原君)、「子供の教育について思うこと」(7月例会テーマ)で橋田君(コーディネーター馬見塚君)がスピーチを行なった。

その後「誕生者祝い」が行なわれ、「よろこび」では小川順君の結婚報告、中村秀平君の入籍報告がなされた。本年度初の出来事に、独身の野島会長も感無量の面持ちだった。最後に青年協会の歌と続き、8月例会は閉会した。

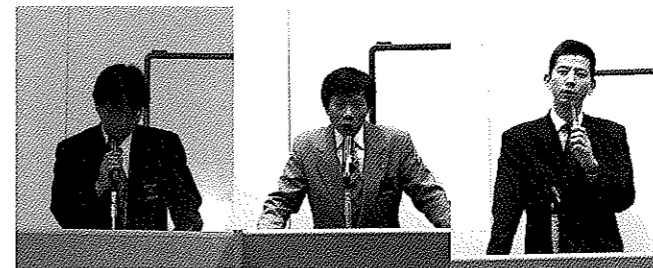
二次懇親会は28名の出席で「中華風居酒屋 Koukaen」で行なわれた。



今日(8/21)が誕生日の橋田君



独身会卒業おめでとう



三分間スピーチ(左より)池田(佳)君、井手君、橋田君



今月は中華で「カンバイ」

特報！ 今月のメインイベント全体研修…急接近!! (研修開発委員会からのお知らせ)

みなさん、全体研修の出席の返事、もうお済みですか。な・なにっ欠席？そんなあなたももう一度スケジュールを調整してみてください。第1部では「どうなる？長崎2005」は、あなたの近未来に、“このままでいいのか…”と、一石を投じます。もうひとつの「ライフセーバー講習」は、いざという時、一刻の猶予も無い時、あなたは、大切な家族の、恋人の、友達の命を救えますか？第2部では救急救命のイロハを学びます。研修開発委員会一同多数のご参加をお待ちしています。

◀ 8月例会開催 ▶

平成13年8月21日(月) / 長崎ブリックホール

例年8月は全体研修が行なわれ、例会はその中で「ミニ例会」として行なわれていたが、今年は全体研修が9月に行なわれることとなり、それにともない「定時例会」として行なわれた。尚、今回は全体研修のイベントを行なうために、出席者38名を業種別にグループ分けした机の配置となった。

会長挨拶、役員報告、委員会報告が行なわれた後、研修開発委員会による全体研修「どうなる？長崎！2005」のイベントが行なわれた。

前半は「自分の生活を見つめ直す」チェックシート、「5年後の自分の生活を予想する」チェックシートに記入を行なったが、氏名を記入する割には際どいプライベートに関する質問も有り、記入をためらう声も上がっていた。

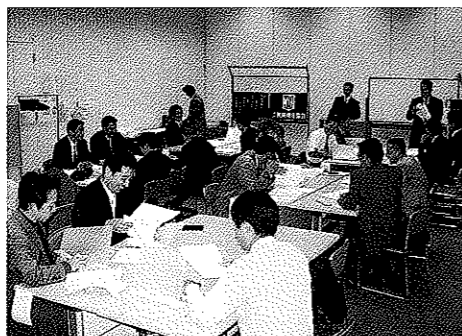
後半では「5年後の長崎市」、「5年後の長崎市とその周辺地域」に関するチェックシートに記入を行なった。人口については長崎市の減少に対し、長与町の増加が発表されたが、そういえば青年協会会員の住所を思い出してみると、納得が行く報告かもしれない。

途中、頭の体操(クイズ)も2問あり、それが一番盛り上がった(回答出来ず辛かった?)様だった。

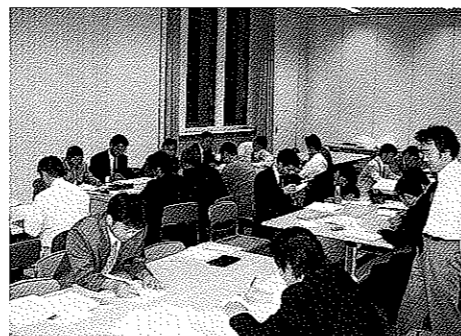
今回はあくまでも全体研修のイベントであり、9月の全体研修の本番では詳しく説明も行なわれる。今回欠席した



坂上研修開発委員長



チェックシート配布中



頭の体操中

◀ 委員会訪問記 ▶

地域事業委員会の巻 = おくんち広場開催を控えて =

委員会の皆さん、厄入り事業が終わったばかりなのに御苦労様です。

原委員長は、委員会メンバーの半数がおくんち広場経験0、1回ということもあり、又、自分自身、青年協会活動最後の年という事で、若手育成にも力を入れているようだ。ところで、この委員会は市外の住民が半分を占めている。委員会も大変だけど、委員会で遅くなった帰り道も気をつけて。

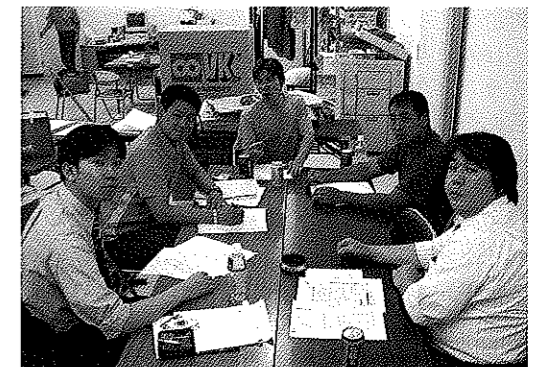
浅田康彦副委員長によるおくんち広場開催の紹介

今年のおくんち広場は、厳選された素材を用いた食品ブース、選びぬかれたゲームの数々、笑顔が最高のスタッフ達が来場者のお腹も心も満たすべく、張り切っております。そしてなんといっても「お化け屋敷」。お化けが違う、照明が違う、背筋が「ゾー」とする寒さ、全てが新しくなって再登場！お楽しみに!!

末石順副委員長による委員会の紹介

我々地域事業委員会は、原委員長の超強力なリーダーシップの下、一致団結して10月6日のおくんち広場前夜祭、7日～9日のおくんち広場を成功させるべく現在熟慮中です。今年は「We Love NAGASAKI」をテーマに老若男女問わず楽しんでいただけるスペースを提供したいと考えております。

いかに会員に負担をかけず、コストを抑え、かつ楽しい広場にするかがポイントですが、江戸町公園も改修され綺麗になり、やり甲斐も有ります。我々も率先して頑張りますので会員の方、奥様のご協力を是非々々お願いいたします!!



委員会風景

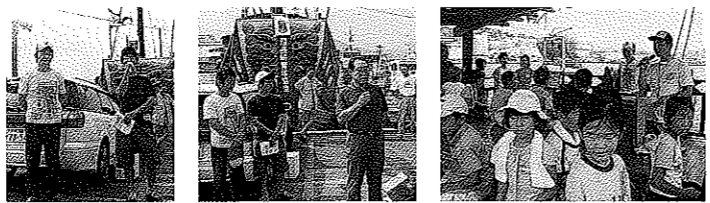
青少年育成事業 「クルーズ&サマーキャンプ」 開催

平成13年8月25日(土)、26日(日)／長崎港、崎野自然公園

8月25日(土)～26日(日)に青少年育成事業が「クルーズ&サマーキャンプ」と銘打ち、九州海事広報協会、長崎港「海の日」協賛会の協力のもと行われた。初日は、9時に尾上棧橋(旧長崎魚市跡地)会員集合。受付の準備。今回は、一般公募の小学校3年生～6年生までの30名が参加だ。名前と今日の体調を聞く。みんな元気! 当日キャンセルをする子供が心配されたが、無事30名が揃う。5班に分かれ、班ごとに集まる。少し緊張した面もちだ。10時30分いよいよ三瀬健司委員長のあいさつが始まる。キャンプの予定等が話され、野島青年協会会長、長崎海運支局深倉課長の挨拶とつづく。そして、いよいよ「飛帆」に乗船。引率されてきたお父さん、お母さんとのしばしの別れ。船の上から手を振る。出航後、麓副委員長から長崎の港についてのガイドが始まる。

長崎と言えば「造船」だ。「飛帆」から間近に見るドック。規模や船の説明を受けながら船は進む。途中、ねずみ島、高鉾島、神の島と、海からしか見られない方向から陸地を眺める。長崎港を出た頃、今度は三瀬委員長から「海事思想」についての説明がある。クイズ形式で、人類が誕生した頃の話から、海の生き物、海水に含まれる塩の量、生活排水による海水の汚染等、海に関する問題だ。みんなわかっているのか、勢いだけなのか、手だけはすぐに上がる。「ハイ、ハイ、ハイ!」

しかし、なかなか正解者はいない。正解者がでると、「オ～」とどよめきと拍手が上がる。航海中いろいろな船とすれ違う。約2時間のクルージング。長崎の街並みを船の上から見て、長崎港の汚れを感じながら船を降りる。次は、崎野自然公園に出発だ。待っていた貸切バスに乗り込む。バスの中ではパンと牛乳を食べ、一人一人自己紹介。この頃になると、最初緊張していた子供達もすでに打ち解けて「ワイワイガヤガヤ」状態。時津の七工区でバスを降りる。ここから徒歩で移動だ。荷物を背負い、時津の海を左手に眺めながら班ごとに歩く。2度の休憩を挟み、崎野自然公園に到着。歩いていた時はきつそうだった子供たちも、着いた途端遊び始める。「子供は元気か～」会員はさすがに疲れていた。しばしの休憩の後、「スイカ割り」が始まる。目隠しをして、班のみんなの誘導を受けながらスイカまで近づいて棒を振りおろす。見事命中したりはずれたり。その都度笑い声があがる。何度も何度も叩かれ、スイカにヒビが入る。「早く食べてくれ～」スイカの悲鳴が



野島会長、三瀬委員長 長崎海運支局深倉課長挨拶 麓副委員長の名ガイド



答えにタジタジ!



どこまで歩くと!



エイヤー!



ちゃんと研げよ!



うまい



んふ♡



火の神登場



♪♪♪#



ファイヤー



グッ モーニング



朝ご飯



全員集合



会員の皆様お疲れ様でした

聞こえてきそう。時間は、すでに4時近く。そろそろ夕飯の支度だ。飯盒に米を入れて火をおこす。普段は火を扱わない子供達が一生懸命火加減の調整をする。飯盒炊飯は難しい。できあがり時間も班でかなり違う。準備ができ、自分たちでつくったご飯にカレーをかけてもらう。「いただきます」みんなお腹がすいていたのかおいしそうに食べる。「ごはんの固かったね。今度はちゃんとつくろう」失敗もまた楽しい思い出のひとつ。かたづけが終わると、いよいよキャンプファイヤーだ。

各班の班長が宮崎誠君の扮する「火の神様」の持つ聖火から各自、火を貰い受け同時に点火した。炎は天高く舞い燃えたが、あまりの高さに協会の冷や汗が! 多少の水を撒き火の調整後、本番に入る。各班で事前に「テーマ」にそって作った替え歌をそれぞれの班で熱唱した。みな創意工夫の有る良い唄であった。次にフォークダンスの時間となったが運悪くCDラジカセの調子が悪くアカペラでのダンスとなった。しかし、BGMの無い中でも、それなりに? おおいに盛り上がった。キャンプファイヤーも終わり、次は「ネイチャーゲーム」を行った。各班ごとに真っ黒な夜道を静かに騒がず行軍し、自然を感じて貰う事が目的で、暗闇の中をおそろおそろ歩いた。まるで、映画の「ブレアウィッチ」を彷彿するかの様で本来の目的とは違う恐怖を感じながら目的地の海沿いの高台へ到達した。そこから見える景色は絶景で対岸沿いに広がるネオンや家灯の光が幻想的に思えた。そこで「ネイチャーゲーム」に関するレクチャーの後、今度は草スキー場へと、また夜道を行軍した。

ここでは「だるまさんがころんだ」風のゲーム? が行われルール上の為に静かな盛況ぶりを見せた。この夜のイベントはこれで終了し子供達や協会員はテントへと戻り寝泊した。かのように見えたが実はどうだったのかは定かで無い?!

翌日は、午前5時30分の起床、ラジオ体操から始まった。子供達は皆、朝が待てなかったらしく元気いっぱいの体操であった。朝ご飯は昨日と同様に飯盒でご飯を炊き、用意された味噌汁を食べた。それから食器等の跡形付けを皆で行った。その後、朝方の「ネイチャーゲーム」を行い、夜間の時と同じ道を歩きその風景やざわめきに違いを感じて貰ったようだ。

そのまま、管理塔で集合し閉会式を行った。担当委員会の閉会挨拶の後、子供達の代表がお礼の言葉を述べたのち、全員での記念写真撮影。そこから前日と同じ場所よりバスへと乗車し大波止ターミナルへと向かった。そこで迎えに来られた親御さん達へ子供達をお返し、この事業は無事に終了した。このキャンプで、参加した子供達は夏休み最後の良い思い出を持って帰れたでしょう。担当委員会の皆様、2日間の大役お疲れ様でした。

～青少年育成事業を終えて～

地域社会委員長 三瀬 健 司

8月25、26日、青少年育成事業を実施し、無事終了することができましたことをご報告すると共に、会員の皆様のご協力に大変感謝いたします。4月から委員会で企画を開始し、諸問題をクリアーしながら完全な企画ができあがったのが7月頭。その時点で広報ながさきの募集は始まっていた。募集記事を見た瞬間「やばい」と思った。

この4ヶ月の間、自分のわがままに付き合ってくれた委員会のメンバーと吉野理事には、大変感謝しております。また、時間を割いてお手伝い頂いた会員の皆様にも感謝いたします。自分一人では、できない事業を、皆の力でここまで仕上げていく。協会の活動には、色々勉強させてもらい、有り難く思います。次の事業もまた控えておりますが、青少年育成事業が怪我も事故もなく終わった事に安心しました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。

平和の灯

平成13年8月8日(水)／平和の泉(平和公園内)

青年協会は「平和の灯実行委員会」の一員として、毎年、この事業に参加しており、今回は主に「手作りキャンドルライトアップ」に関してお手伝いを行なった。市内小・中学生製作分を含む約5,000個のキャンドルに点灯する19時前に3年連続となる雨が降りだし、関係者をひやりとさせたが、幸いにも小雨程度ですぐに上がり、「平和の灯」は予定通りに開催された。

19時より平和への願いを込めて製作されたキャンドルに平和への願い込めて点灯していき、その後はキャンドルの管理を行ない、そして20時30分よりキャンドルの消灯、片付けを行なった。

平和な時代に生まれ、育った我々にも、改めて平和を考える機会になったと思う。

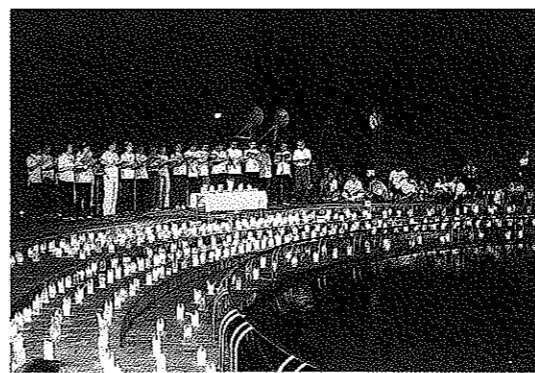
「平和の灯」は19時～20時30分ではあったが、その前の準備やその後の片付けと、参加された19名の皆さん、お疲れ様でした。



協会員集合



協会員活躍中



平和の泉ではコンサート

編集後記

「平和の灯」時、平和の泉より「あの子」の歌が聞こえてきた。山里小卒の私も心の中で歌ってみたが、意外と覚えている。経験上ではあるが、山里小では原爆が平和教育の原点だったような気がする。小学校時代の事なのに……。

今年も青少年育成事業が行なわれた。毎年行なわれる青少年育成事業ではあるが、今迄に参加した子供達はあの経験、あの出会いとおしてどのように育ったであろうか。そして、今回参加したこの子達はどの経験、この出会いを通じてどのように育っていくのだろうか。

小学生という多感な時期に得た経験は将来に大きな影響を及ぼす。我々は子供達に良い経験、良い思い出を作ってあげるのと同時に、我々も成長して行きたい。